

## 平成25年度鳥取県東部沿岸土砂管理協議会

【日時】 平成25年10月30日（水） 午前10時～11時30分

【場所】 県庁議会棟 特別会議室

【出席者】 会長：鳥取大学大学院工学研究科 松原教授

協議会委員：別紙のとおり

望月委員は所用により川本副所長代理出席  
森下委員は所用により松本課長補佐代理出席  
宮内委員は所用により小西参事代理出席  
廣谷委員は所用により欠席

オブザーバー：別紙のとおり

岩崎オブザーバーは所用により安藤専門員代理出席

宇山オブザーバーは所用により欠席

事務局：河川課（丸毛課長、清水課長補佐、森係長、白根係長、宮中技師、露木技師）

### 【協議概要】

陸上海岸から長和瀬漁港の区域において、土砂の流れの連続性の確保及び回復を目指し、関係機関が連携しながら土砂管理等を促進するため、その方策の検討及び調整を行った。

### 【協議結果】

- 前回協議会（H25.2.15）の意見に対する対応について説明。委員から特に意見無し。
- 各議事における意見は以下のとおり。
  - サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出
    - ◇千代川右岸（鳥取砂丘）
      - ✓ 4k500 付近の漂砂方向は状況によって変化するため注意が必要。
      - ✓ サンドリサイクルの土砂に植物の種子が混入していることがある。砂丘への環境影響も十分に配慮して取り組んでいただきたい。
    - ◇全体
      - ✓ 海浜を的確に評価できる基準が必要であり、「必要とされる浜幅」を設定すべきである。
  - 土砂管理計画の点検
    - ✓ 漂砂系外からの土砂搬入や河川中上流域における対策実施により、海岸への土砂供給を確保することが必要。
  - 今後の取組（各施設管理者との意見交換）
    - ✓ 千代川において、河床変動モデルを構築して河口からの供給土砂量を算出すべき。
  - 千代川における河床掘削の事例について
    - ✓ 千代川中上流域からの土砂供給を増やそうとする積極的な試みであり期待できる。
  - 陸上海岸における簡易な移動装置によるサンドバイパス試験工事の取り組みについて
    - ✓ 積極的に推進してほしい。
- 次回協議会の開催は、H26.10月頃を予定。

## 【協議内容】

### 【議事1】 サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

(事務局)

- ・〈資料に沿って説明〉

◇岩美海岸（浦富地区） →特に意見なし

◇千代川右岸（鳥取砂丘）

(黒岩委員)

- ・4k500の漂砂方向は西から東との説明があったが、一概にそうではないので注意してほしい。

(松原会長)

- ・4k500付近が漂砂方向の境界。状況によっては東から西へ行く場合もある。

(堀田オブザーバー)

- ・サンドリサイクルの土砂に植物の種子が混入していることがある。砂丘への環境影響も十分に配慮して取り組んでいただきたい。

◇千代川左岸（白兔海岸） →特に意見なし

◇気高海岸（浜村海岸）

(黒岩委員)

- ・船磯漁港について、昨年の冬にかなりの堆砂があったが、今年状況はどうか。

(植村委員)

- ・今年はそんなに堆砂していない。通常の維持管理で対応しているところ。

(黒岩委員)

- ・今後とも注視が必要。

◇全体

(黒岩委員)

- ・現在の海浜の評価手法は、過去からの汀線変動量を基本としており、その変動量が少ないことから、現在の海浜が安定的であるという結論を導いている。しかし、ベースとなっている過去の汀線が本当に良好なものであるか不明であり、海浜の評価方法として信頼性が薄い。海岸には必要とされる浜幅がある。その浜幅を下回らなければ、まだ侵食は許容されるなど、現在の海浜を的確に評価できる基準が必要であり、「必要とされる浜幅」を設定すべきであると考えている。

(事務局)

- ・海岸保全施設としての必要浜幅の算定は必要であると認識しており、今後の課題として取り組んでいきたいと考えている。

## 【議事2】 土砂管理計画の点検

(事務局)

- ・〈資料に沿って説明〉

(山崎オブザーバー)

- ・今回の点検に伴い、土砂管理計画に示されている数字は変更しないのか。特に千代川河口から供給される土砂は、計画が8万m<sup>3</sup>に対して実績が1.9万m<sup>3</sup>となっており、見直しが必要ではないか。

(事務局)

- ・直ぐに計画を変更するのではなく、少し様子を見たい。漂砂系外からの土砂供給を積極的に実施し、計画と実績のバランスを補っていく。

(山崎オブザーバー)

- ・今後、漂砂系外からの土砂はあてがあるのか。

(事務局)

- ・今回示した最適な土砂を基に、今後関係機関において調整してもらいたい。

(松原会長)

- ・「千代川からの流出土砂量」と「沖合へ流失する土砂量」がマッチングすれば、土砂の連続性を確保できる。
- ・河口からの供給土砂が計画に比べ少ない状況である以上、長期的には海岸域の土砂が少なくなるため、漂砂系外の土砂利用や河川中上流域における対策の実施が必要。

(黒岩委員)

- ・千代川河口から供給される土砂が減っている現状を考慮して、精度の高い土砂管理計画を再構築できれば、必要となる漂砂系外からの土砂供給量が見えてくると思う。

(山崎オブザーバー)

- ・「土砂管理計画の点検」資料P4に「保安林区域の見直し」の記載があるが、どういう意味か。

(事務局)

- ・調べて後日回答する。

→基本原則は、サンドリサイクルにより海浜安定を図るが、侵食による地形変動の状況によっては、その妥当性を検討したうえで、保安林区域をセットバックすることも視野に入れて、海岸保全を行っていく必要があるということ。(後日回答済み)

**【議事3】 今後の取組（各施設管理者との意見交換）**

（松原会長）

- ・日野川では総合土砂管理計画を策定しているところであり、河床変動モデルを構築して、将来的に見込まれる河口から供給される土砂量を算出している。千代川においてもそのような検討をすべきである。

（望月委員(代理) 川本副所長）

- ・日野川では、上流の砂防域も国が管理しており、断面・縦断等のデータがしっかりしている。一方千代川はそれらのデータの精度が定かでなく、検討したとしたも誤差を大きく含んだ曖昧なものになってしまう可能性がある。今後の検討課題である。

**【その他】 千代川における河床掘削の事例について**

（望月委員(代理) 川本副所長）

- ・〈資料に沿って説明〉

（松原会長）

- ・千代川中上流域からの土砂供給を増やそうとする積極的な試みであり期待できる。貢献度がどの程度か不明であるが、何れにしても前向きな取り組みである。

（堀田オブザーバー）

- ・出水の後、河道内の植物が流されて砂丘周りに漂着ごみとして上がってくることがある。景観上よろしいものではないため、そのような漂着ごみが極力出ないような配慮はできないか。自然の営みとして仕方ないかもしれないが、観光客からもそういった声をよく聞く。

（望月委員(代理) 川本副所長）

- ・なかなか難しい。

（松原会長）

- ・今回の取り組みのように堆積した土砂を流しやすくするために、溝を掘って対応することについて、1，2回目の出水においては、まだ植生が残っていて、そういった漂着ごみも出るかもしれないが、これが繰り返されれば、れき河原となり植生も抑制されることになる。その結果総じて良い方向に向かっていくのではないかと思う。

**【その他】 陸上海岸における簡易な移動装置によるサンドバイパス試験工事の取り組みについて**

（鳥取県土整備事務所維持管理課梅原係長）

- ・〈資料に沿って説明〉

（松原会長）

- ・ぜひ積極的に推進していただきたい。